

新・さぬき野

香川県

2016 No.53

夏



夏、アートの海へ



「新旧島民の交流の場にしたい」 男木島図書館

山村寿行、西村望など、島出身の作家の本が充実、島への移住相談もできる。



開館は、金・土・日・月曜の午後1時～午後5時



来館者には島外からの観光客も多く、休憩所や案内所のようにもなった。気軽に相談できる人も受け入れる図書館だけに、今後そんな役割を帯びるかは未知数だ。福井さんは、未知数に面白さを感じながら、仲間たちとその場所を育てている。

男木島は、休校していた小中学校や保育所の再開で話題になっていて、福井さんはこの活気を存続するには交流拠点が必要だと感じていた。ただ、コミュニケーションも必要されると窮屈になる。用事がなくてもふらりと立ち寄り、話をしても、黙って本を読んでもいい。自分の好きな距離感で人とふれたい。図書館の自由さがいとおもった。もちろん、読書の楽しさも知ってもらえる。



青藤美紀さん
三徳郡で共に働き、2015年に単身で移住。福井さんと共に図書館の運営を支える。

福井順子さん
2014年に家族3人で移住。WEBデザイナーとして自宅で働きつつ、図書館を立ち上げた。

香川に住んで

はじめたこと



古い民家を自分たちの手でリノベーション。島の漁師さんなど延べ120人が手伝う。

瀬戸内国際芸術祭で多くの人が訪ね、一躍脚光を浴びた男木島に、今年の2月、私設の小さな図書館ができた。古民家を改装した空間に、小説、写真集、雑誌などが並び、読書のための机と椅子がある。島内外の誰もが無料で立ち寄れる。発案者は、昨年、夫と娘と共に移住

してきた福井順子さん。図書館運営のためにNPO法人を立ち上げ、理事長を務めている。読書好きの福井さんだが、作られたのは場所であり、本はそのための手段だと言う。「放課後に子どもが集まれる児童館や、新旧島民の交流の場の役割を果たせるといって福井さん。」

香川県情報誌

新・さぬき野 2016 夏 No.53



香川県に関する問い合わせ

香川県立総合情報センター 〒760-8570 香川県高松市基町4-1-10 TEL087-832-3019
香川県のホームページ <http://www.pref.kagawa.jp/>
新・さぬき野のページ <http://www.pref.kagawa.jp/kocho/sanuki/no/> (電子ブック・スマートフォン版あり)
香川県東京事務所 〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館9階 TEL03-5212-9100
香川県大阪事務所 〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋1-18-24 クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661



かがやけん。かがあけん。
香川県

瀬戸内国際芸術祭2016

Setouchi Triennale 2016

会期

夏 | 2016年7月18日(月・海の日) — 9月4日(日)49日間

秋 | 2016年10月8日(土) — 11月6日(日)30日間

開催地

直島/豊島/女木島/男木島/小豆島/大島/犬島/
本島[秋のみ]/高見島[秋のみ]/栗島[秋のみ]/
伊吹島[秋のみ]/高松港・宇野港周辺

※伊吹島は春会期のみ開催のため終了

作品鑑賞パスポート

一般:5,000円 高校生:3,500円



瀬戸内海に浮かぶ大小の島を舞台とする「瀬戸内国際芸術祭2016」。

3回目となる今回も、島の暮らしと現代アートの出会いにより、

ここでしか見ることのできない作品が生まれている。

本格的な夏の到来を告げる「海の日」より、活気あふれる夏会期が始まる。

潮の香りを運ぶ風、雨の気配を伝える風。風の多い瀬戸内にも風は吹く。

風が自由に海を渡るように、アートに彩られた夏の島を巡りたい。

島々を渡る風。



鳥々を渡る風。

食べものを知ることは、その地域を知ることにつながる。
 地元の人は、どの時期に何を食べれば、
 またどう調理すればおいしく知っている。
 地元では当たり前と思われている食材や料理に
 アートのエッセンスを加え、島の魅力を存ぎ彫りにする。



3回目の芸術祭
3つのプロジェクト

生活文化の基本

食

島の恵みでおもてなし

芸術祭をきっかけに、島の生活文化を知ってもらおうと試みは、第1回から続けられている。今回は、その中でも基本的な「食文化」にスポットを当て、味覚を通じて島それぞれの魅力を感じてもらおう。

芸術祭に先立ち、まず「瀬戸内(食)のフラム塾」を開講し、人材の育成から開始した。受講生らが島々の特性を生かしたメニューを考案し、「食べられるアート」として来場者をもてなす。

フラム塾開塾イベント
「食から生まれるアート」
—島が誇る食文化の一端—
では、島産の食材を中心に
創作した料理を展示し、



栗林公園で過ごす特別な時間

栗林公園は、讃岐藩主が賓客をもてなす場所として百年余りかけて完成させた大名庭園。その芸術性は海外からも高く評価され、海を越えて多くの観光客が訪れている。昨年は、栗林公園内の遊覧館として商工奨励館がリニューアルオープンした。庭園を臨むそのレセプションホールを舞台に、「讃岐の晩餐会」と題されたイベントが開催される。瀬戸内の食材を地元調理法で料理し、アートパフォーマンスの鑑賞と共に提供する。来場者は特別名勝での特別な時間を過ごすことになる。



7つの島で体感する新しい作品



【夏会期・会場】

直島/豊島/女木島/男木島/
小豆島/大島/犬島/
高松港・宇野港周辺

夏会期、高松港には「瀬戸内アジア村」が登場する。
 会場では、アジアの職人の技や食文化に触れることができる。
 活気あふれる高松港を起点に、夏会期の7つの島に渡り、島の魅力と一緒に作品を体感したい。



【直島】
三分一博志「直島ホール」
地域住民のための多目的施設。周辺の風や水、太陽の動きを精密にリサーチして設計された。



【男木島】
大岩オスカル「部屋のの中の部屋」
部屋の中に90度回転した部屋が出現。巻の床は壁になり、床の隅が足元に、一瞬、平衡感覚を失う。



【大島】
田島征三「青空水族館」
海の世界が続く広げられる「空間詩」を、陸の上で鑑賞する回遊型のインスタレーション。



【小豆島】
ワン・クエンチー(王文志)「オリーブの夢」
小豆島の特産品であるオリーブをテーマに、地元産の5000本の竹を組んで巨大なドームをつくる。



【豊島】
クリスチャン・ボルタンスキー「さきやきの森」
屋外に展示される200個以上の風鈴。風が吹くたびに鳴る音は、あの頃に訪れた島を思わせる。



【犬島】
アート: 柳幸典/建築: 三分一博志
「犬島精錬所美術館」
近代産業遺産である銅製錬所の遺構を美術館として再生。三分一博志の建築と柳幸典の作品で構成される。



【宇野港】
エスネル・ストックアー
「JR宇野みなと線アートプロジェクト」
JR西日本の観光列車「ラ・マル・ド・ボア」と合わせて、宇野線の4駅がアート化される。



【女木島】
平尾成志×藤田内工賞ズ、/香川県盆栽生産振興協議会
「feel feel BONSAI」
砂浜から続く松林。その中にある一軒家を舞台に、自由自在に盆栽が展示される。



【高松港】
ワン・クエンチー「国境を越えて・海」
前回の芸術祭で台湾から豊島に運ばれた種の船は、一度台湾に帰り、再び海を越えて高松港に到着した。

女木島で「瀬戸前寿司」を提供

ソウダールさん

私は日本のいろいろな場所で料理を作ることがありますが、各地の特色を生かした伝統的な料理が欠われつつあると感じています。今回、芸術祭で料理を出すことになり、一過性のものでなく、芸術祭の後も残る料理を作りたいと考えました。

奇年々から何度も香川に足を運び、出会った人たちに話を聞きながら生まれたのが、「瀬戸前寿司」です。瀬戸内海は日ごとに多様な魚を獲ります。素晴らしい海です。この豊かな海の恵みを、菓面に一品に表現しています。塩、しょうゆ、酢などの調味料もすべて地元のものを使いました。つまり、ここに来て食べるのが一番おいしい料理です。

押し寿司にしたのは、家庭でも作りやすいからです。各家庭でアレンジされながら、親から子へ受け継がれて、いつしか島の伝統料理になってほしい。そんな思いを込めながら、島のおばちゃんたちと一緒に厨房に立っています。



瀬戸内国際芸術におけるアートは、
それ自体が目的ではなく、
置かれている場所を知る仕掛けとなっている。
香川で生まれ育かれた文化の魅力が、
現代アートによって再発見される。

地域文化の 独自性発信

3回目の芸術祭
3 CONCEPT

祭りのエネルギーが 文化を生む

地方では、まだまだ「祭り」は特別な日である。そこに暮らす人が1年の思いをぶつける「ハレの日」として根付いている地域も少なくない。そのような場所では、まるで祭りを中心に1年が回っているように見える。

祭りにかけるエネルギーは、地域独自の様式美を生み出す。香川の「獅子舞」もその一つである。獅子を舞う時にかぶる布・油紙は、原色を用いた派手で勇ましいものが多く、秋の香川では、甲高い鐘の音に合わせて、極彩色に彩られた獅子が舞う。



大川原染色本舗 大川原 誠人さん

香川県は獅子舞が盛んで、約800もの獅子組があり、秋祭りには獅子舞奉納が行われます。当本舗は、もち米のりで防染して図柄の輪郭を白抜きする「讃岐のり染」の技法で、獅子の胴になる布・油紙を作っています。全国的には綿生地にも毛の模様を染めたものが多く、獅子の動きをしなやかに表現できる絹布に戦国武将などを極彩色で描いた油紙は、香川独特のもので、

2013年の芸術祭から、男木島の漁師さんを元気にするために、船に絵をペイントし、のり染の技法で大漁旗を作る、「TEAM男気」のプロジェクトに参加しています。男木島の商店や民家に、何かいい事があった日に掲げてもらう祝儀も作っています。どちらか船や家の主と図面を話し合い、島の風物染め上げます。

男木港でペイントした船が見られ、商店などで祝儀が見られることもあります。11月6日の芸術祭最終日には、大漁旗をはためかせ、複数の船で島の伝統を再現する大漁踊り込みが男木港にあります。ぜひ見に来てください。



自由で 刺激的な 盆栽の世界

気候や風土、土地でとれるモノなどは生活文化に深く関わっている。つまり文化には地域性がある。土地で生まれた文化は時間に磨かれて特産品になる。香川にも多くの特産品があるが、近年は海外から「盆栽」が注目されている。女木島では、盆栽師である平尾成志さんと地元クリエイター集団「瀬戸内工芸ズ。」がタッグを組み、1軒の民家を舞台に思いもよらない展示を見せる。既成概念にとらわれない、刺激的な盆栽の世界が広がる。



KIJIMAR MARKET by Supermachina
Big Mountain Music Festival 2014, The Band
Photo: Phippong Chaeasakul

アジア 海の つながり

3回目の芸術祭
3つのプロジェクト

アジアは海に暮らす地域である。海の恵みを糧とし、海上こそ交通と物流の動脈であった。「海の復興」掲げる瀬戸内国際芸術祭は、アジア諸地域のモデルでもある。アートの枠にとどまらず、人と文化が交流する場が芸術祭の会場に現れる。



ホスト、ゲストの
垣根をなくして。
EAT&ART TAROさん

前回の芸術祭では、島の個性を記憶に残す媒体として「鳥スープ」を提供しました。その試みは、今回は「食のフラム塾」の皆さんが引き継いでくれたと思っています。じゃあ、まったく違うベクトルのことをやろうと考えたのが「ALL AWAY CAFE」です。

芸術祭では、見に来た人たちが島の人を受け入れるという図式になりがちです。香川の人がホストで、県外から来る人がゲスト、場合によっては日本人がホストで外国人がゲストかもしれません。その垣根をとばらう場所があれば面白いと思いました。「ALL AWAY CAFE」は、どんな言語も通じませんし、どの国でもない料理を提供します。迎える人、来る人の立場がなくなる場所です。

料理のおいしさは味だけではありません。海外旅行で思い出したいもの食べた。その思い出のおいしさの一つです。食べるまでに不自由がある仕掛けをあれこれ練って、思い出として残るカフェを目指します。



「瀬戸内アジア村」 が登場

夏会期中、サンポート高松の一角が異国の地となる「瀬戸内アジア村」が登場する。会場では、アジアから参加した職人たちがものづくりや食文化を紹介する。アジアのパワーが一堂に集まる活気あふれる場所となる。また13の国と地域からパフォーマーも参加し、平日は会場となる島に渡って島民とのワークショップやショーイングを行う。週末には、パフォーマーもアジア村に集結して公演を行い、村の熱気はさらに上昇する。



誰もが戸惑う 不思議なカフェ

「瀬戸内アジア村」に合わせて、EAT&ART TAROさんが手がける飲食店「ALL AWAY CAFE」が開店する。この店では、日本語も英語もいかなる国の言葉も通じない。しかも、写真を指さしただけではメニューを選べない仕掛けが施される予定だ。たとえ地元の人であってもここではアウェイであり、一人の来訪者として過ごすことになる。国や言語などのテリトリーを取り払った、すべての人が「食べもの」でつながる不思議な場所である。



漆器「静寂」
18.7×29.7×17.7
藪内江美作



藪内 江美

香川県漆芸研究所実習指導員/日本工芸会正会員
第28回日本伝統漆芸展 文化庁長官賞
第30回日本伝統漆芸展 MOA美術賞
第60回日本伝統工芸展 朝日新聞社賞
平成25年度香川県文化芸術新人賞



漆器「秋声」
27.3×48.3×3.8
藪内江美作

香川漆芸、美の系譜

香川漆芸の祖、
玉楮象谷生誕210年
風土が育む豊かな漆の世界

漆や漆器が「Japan」と訳されるほど、日本の美を代表する「漆芸」。香川県に漆芸が根付いたのは、江戸時代後期のこと。高松藩の御用漆師の家生まれた玉楮象谷は、家業を継いで塗りや彫りの技を身につけ、京都に遊学した後は中国で発達したという堆朱、堆黒、存清などの唐物漆器、また、南方渡来の監胎蒔繪の研究を重ねた。そして生み出されたのが、大胆かつ繊細な彫りや鮮やかな色漆で独特の美を生む「香川漆器」の技法である。今日、象谷が始めた蒔繪・存清・彫漆は「香川の三技法」といわれ、若手作家たちに脈々と受け継がれている。

今年、玉楮象谷が生まれて210年。これを記念して「香川漆芸の祖 玉楮象谷生誕210周年 香川漆芸美術展」その始まりと今と今」を開催し、玉楮象谷の貴重な作品を中心に、華麗で繊細な漆芸の世界を紹介する。同時に、注目の若手作家の作品を展示する。これにより、香川漆芸の原点と現在の対比を見ることが出来る。

この展示会にも作品を出品する、まさに漆芸界の今後を担う若手作家の一人、藪内江美さんに話を伺った。

「蒔繪・存清・彫漆の『香川の三技法』は他にはない珍しい技法です。これを確立した玉楮象谷は漆芸界の偉大な先人、この人無くして香川漆器は生まれなかったでしょう。けれども、この技法を保護した高松藩の力も大きいものがあります。そうした歴史を踏まえ、現在は県の施設として、香川県漆芸研究所が

あり、全国に門戸を開いています。これは、香川のみならず日本の漆芸にとって大変に重要なことです。日本において、漆芸に関する公立の研修施設というと石川県立輪島漆芸技術研修所と香川県漆芸研究所しかありません。さらに、蒔繪・存清・彫漆を学ぶには、ここしかないわけですから、この研究所がいかに大切か、お分かりいただけると思います」。

藪内さんは、愛知教育大学で漆の勉強をした後、蒔繪を学ぶために香川県の漆芸研究所に入所。3年間の研究生課程と1年間の研究員課程を経て、現在は香川県漆芸研究所で蒔繪の実習指導にあたっている。

「この漆芸研究所では、驚くことに蒔繪の講師陣に3名の重要無形文化財保持者がいらつしやいます。故人も含めると漆芸では5名もの人間国宝が香川県から誕生しています。ここには、世界のどこにも無いと言ってしまうほど、豊かな漆芸の文化が根付いているのです。文化会館に併設された漆芸研究所の常設展をはじめ、こうした漆芸の展示会で名品を見る機会に恵まれていることもその一つでしょう」。

私は若手作家の作品は、どこか象谷先生の作品とは違う、今という時代の風をはらんでいると思います。今回の展示ではその違いも楽しんでいただければ幸いです」。

香川漆芸の一つ「蒔繪」は、焼酎にも塗り重ねた漆を彫りする。その技法そのままに、厚く重ねられた歴史の上に鮮やかな時代の軌跡が刻まれ、香川漆芸の美は豊かに咲き続ける。

香川県漆芸研究所修了作品貸出制度

若手作家にも受け継がれてきた香川漆芸の魅力をより身近に、より広く知っていただくため、香川県にゆかりのある県内外の企業・団体へ、香川県漆芸研究所が保有する研究生の修了作品を無償で貸し出す制度がスタートした。応接室や窓口などに展示していただくことで、さらに多くの人々の目に触れることが期待されている。

問い合わせ先/香川県漆芸研究所 TEL:087-831-1814
募集期間/平成28年5月20日(金)～6月30日(木)



夏会期/7月15日(月・海の日)～9月4日(日)
秋会期/10月6日(土)～11月5日(日)
会場/男木島集落内「漆の家」

瀬戸内国際芸術祭 漆の家プロジェクト

香川県漆芸研究所の工芸指導員である、重要無形文化財保持者の北岡省三氏、重要無形文化財蒔繪保持者の大谷早人氏らが参加し、木造家屋を漆芸技法で改装した「漆の家」。色彩豊かな香川漆芸の特徴にふれ、その美意識が体感できる。漆の力かフェ(11時～16時)も併設され、飲み物や菓子を楽しめる。



重要美術品 玉楮象谷「彩色蒔繪御用紙硯匣」
(高松市歴史資料館蔵/香川県立ミュージアム所蔵)

香川漆芸の祖 玉楮象谷 生誕210周年 香川漆芸美術展 ～その始まりと今～

会期/平成28年8月6日(土)～9月19日(月・祝)
会場/香川県立ミュージアム 常設展示室4・5
展示作品/玉楮象谷作品・関連資料 約30点
若手漆芸作家作品 約20点ほか

知事 香川県高松市で生まれ育った篠丸のどかさんは、少女漫画雑誌への投稿をきっかけに、プロの漫画家になられたと伺っています。現在は、さまざまな雑誌で連載作品を持つ人気漫画家。何より、香川県を舞台にした「うどんの国の金色毛鞠」のテレビアニメ化が決定したとのこと、誠におめでとうございます。香川県としても、ふるさとの魅力を知っていただく本場に良い機会になると、うれしい限りです。

篠丸 小学校の頃から「漫画家になりたい」という夢を抱いていました。高校時代、友人のアドバイスで講談社の少女漫画雑誌に投稿し、佳作をいただきました。あれほど漫画家になりたいと思っていたのに、なかなか自分のことではないみたいで信じられませんでした。そして、今度は自分の漫画がテレビアニメ化されるなんて。その上、それが香川を舞台にした作品ですから、もうホントにうれしくて。

をさりげなく、それでいながら印象深く描いてくださる作品です。作品の中では、Uターンでふるさとに帰ってくる主人公の思いや周囲の人々の心情などが、見事に描かれており、多くの人々の共感を生んでいます。その病が熱くなるお話の舞台として、香川県の場所や建物、名物の数々も登場し、実際に行ってみたいと思っただけでなく、大勢おられることでしょうか。そこで、昨年の6月からは、香川県公式観光サイト「うどん県旅ネット」の専用ページでも、観光スポットなどを紹介させていただいており、大変感謝しております。

篠丸 連載中にマイページというページをいただいて、身の回りのことや漫画のことなどを書いていましたので、その内容を「うどん県旅ネット」でも紹介させていただきます。漫画に登場する香川県のことを補足したいという気持ちで書いたものが多くあったので、結果、ウェブサイトには香川の魅力がぎゅっと詰まっています。「うどんの国の金色毛鞠」は、自分にしか描けないも



うどんの国は金色のふるさと

「うどんの国の金色毛鞠」とは香川県を舞台に、人間に化けるちびっこタヌキのポコと青年・京太との交流を描いたハートフルファンタジー。新編「月刊コミックおぼん」にて好評連載中。2015年秋、日本テレビ・西日本放送ほかにてテレビアニメ化が決定した。



作家 篠丸のどか

1985年香川県高松市生まれ。栗林小学校、榎町中学校、高松養正高校にて学生時代を過ごす。高松養正高校在学中に、講談社の少女マンガ雑誌「別冊フレンド」で佳作を受賞し、デビュー。2012年より、新編「月刊コミックおぼん」にて、初連載となる「うどんの国の金色毛鞠」を開始。現在、本作のほか「黄金ワールドエンド」(新編「ゴージャパン」)、「花と蜜」(講談社「ヤングマガジン」)を連載中。



のを描きたいという思いから生まれました。高校時代まで遊んだわけですから、地元のことなら誰にも描けない表現ができるはず。ですから、最初から香川県が好きで好きで、ふるさとを舞台に描いたというより、作品を通して香川のことをもっと好きになったという感じでしょうか。

知事 さらに、お話を登場するキャラクターのポコには、今年の2月に「うどん県食いしん坊広報部長」に就任していただきました。

香川県知事 浜田 恵造

ポコは人間の子どものように化けたタヌキと紹介されていますが、香川県にはタヌキの総大将といわれる屋島寺の太三郎(たぬき)をはじめタヌキの民話が多く残されています。そうしたお話を親しんで育ったということでしょうか。

篠丸 実家は屋島の近くで、小さい頃から屋島寺へお参りに行くたびに、どうして大きなタヌキの像があるんだらうと不思議でした。また街中の中央公園にも、大きなタヌキの石像がありますが、この「ハゲさん」のお話もよく聞かされてきました。ポコは、やっぱり香川県ならではのキャラクターだと思います。

そのポコを「うどん県食いしん坊広報部長」に任命していただき、本場にありとうございます。ポコが香川の魅力をもっと多くの人に伝えられるよう、私もますますがんばりたいと思います。

知事 香川県には、うどん以外にも実に多様なおいしいものがあります。その一部も折々に取り上げていただいていますが、ビールに合う「骨付鳥」や讃岐

ならではの。あん餅蒸し、西讃地方で有名な。おひろい、これは結婚式の引き出物でも人気です。また、相三盆も登場しましたね。

篠丸 骨付鳥は、子どもの頃から大好きで、家族でもよく食べに行きます。最近目覚めたのは、和三盆のおいしさですね。なんておいしいお砂糖があるんだらうと感動しました。祖母の家は農家だったので、夏休みには畑でとれたスイカをよく食べさせてくれました。そうそう、四角いスイカも有名ですね。果物も、香川県はいろいろな試みをしているという印象があります。

知事 四角いスイカは食べられませんが、季節の飾り物として大変人気があります。また、スモやビワ、モモやブドウ、イチジクにナシ、カキと初夏から秋にかけて、おいしい果物が次々と出てきます。冬にはミカンやイチゴ、キウイなど、二年を通じて、フルーツにも恵まれています。県のオリジナル品種も多く、確かに栽培の工夫、新品種への挑戦とさまざまな努力が続けていますね。



のどかとポコのうどん県紀行 <http://www.my-kagawa.jp/poko/>

伝統のうちに アートの風

かつて、うちわは大人気の広告ツールであった。夏の時期には、商店や祭りの宣伝を描いたうちわが、人々の手にはためいていた。描かれたデザインは時代を映し、名作はアートとしても価値が高い。新しいデザインで地場産業に新たな風を吹き込みたいと、香川県デザイン協会が「丸亀うちわ」のデザイン開発を始める。2006年に香川で開催されたJAGDAの全国大会で、日本デザイン界の重鎮である故福田繁雄氏の提案により、うちわをキャンバスとした「FUNFAN展」を開催。これには、香川県うちわ協同組合連合会も大いに期待を寄せた。翌年には、福田氏を総合プロデューサーとして、海外23カ国61名、国内19名のグラフィックデザイナーの参加により、国内はもとより、イタリヤ、台湾、チエコ共和国、アメリカでも「世界に愛の風を」と題するFUNFAN展を開催した。いずれの国でも、うちわづくりの実演に人垣ができ、うちわ製作のワークショップは長蛇の列となる。

さらに、北海道洞爺湖サミット開催記念として、サミット参加国で活躍する25名のグラフィックデザイナーが「環境」をテーマにうちわ制作のワークショップを開催。このワークショップは、2009年よりベトナムやカンボジア、南米のパラグアイでもFUNFAN展を行う。

その一つ、ラオスの展示会をきっかけに、「香川らしい国際協力プロジェクト」「ラオス・ビエンチャン県バンビエン郡うちわ産業振興支援プログラム」が、JICAの協力を得てスタートする。ラオスは、うちわの付となる竹の産地で、竹細工の技も伝わる。製造技術やラオスの人々に伝え、「ラオスうちわ」を生産することで、現地の人々の所得の向上と生活の安定につながろうと考えたのだ。

2012年にはラオスを訪問してキックオフミーティングを開催。次にラオスから指導者を目指す4人が来県し、うちわ製造のいろはを学ぶ。その後、細やかな指導がラオスと香川を往復して行われ、「ラオスうちわ」は土産物として店先に並び始めていった。2013年には、当時のトンスン・ラオス首相が安倍首相に、両者が握手する姿を描いた「ラオスうちわ」を贈呈するなど、両国の友好のシンボルともなる。

この取り組みがラオスを起点に東南アジアへ広がり、「丸亀うちわ」の愛の風が世界中に届くことを願っている。それには、東京

友好のそよ風

ちわを制作。国際メディアセンター内で展示デモンストレーションや配布を行ったが、すぐになくなる盛況ぶりであった。その後、北京オリンピックの事前合宿に香川県丸亀市を訪れた選手たちへ手渡す応援のうちわや、高松国際ピアノコンクールのうちわも制作した。また、東日本大震災の被災者を励ますチャリティー活動として、アメリカやベトナムなど世界のデザイナーが描いた「アートうちわ」が並ぶFUNFAN展も展開。これら数々の「丸亀うちわ」には、販売や知名度アップだけが目的ではなく、うちわとデザインのコラボレーションにより、国境を越えた応援や励ましの風を送り、絆を結びたいという願いがこもっている。

オリンピックでも、「丸亀うちわ」がおもてなしと声援の大きな風を巻き起こしてほしいと考えている。

「丸亀うちわ」の風は、人の手が起こす優しい風。地球環境に優しく、人々に優しい。絶やすことなく、世界中にそよぐ優しい風である。



優しい風を 世界へ

香川は日本一のうちわの生産地。江戸時代からの歴史ある「丸亀うちわ」は、現在でも県の地場産業として全国シェアの9割を占める。国の伝統的工芸品に指定された「丸亀うちわ」であるが、決して伝統を守るだけではない。さまざまに新たな風を起そうとしている。

ラオスで作られた和紙を貼ったラオスうちわ



ラオスにある「ルアンパバーン子ども文化センター (Chikren Cultural Center-CCC)」で、貼り体験のうちわを持った子供たち



ラオスの研修風景



FUNFAN展ポスター



2009年3月、バンコク、セントラルワールドで開催されたFUNFAN展。

FUNFANホームページ <http://funfan.org>

香川・愛媛 せとうち旬彩館

KAGAWA KHIME
SETOUCHI SEUN SAI KAN
東京・新橋アンテナショップ
特産品、郷土料理、観光交流コーナーで
香川の旬をぜひどうぞ

注目はこれ!

暑い夏には、やっぱりそうめん!
おすすめは「生そうめん」と「オリーブそうめん」



生麺ならではの、もちもち・つるつるした食感が特徴の「生そうめん」は、本場香川ならではの楽しみ方。緑色が美しい「オリーブそうめん」は、オリーブの果実を練りこんでおり、香り高いそうめんに仕上がっています。その他にも小豆島の手延べそうめんなど、さまざまな種類のそうめんがそろっています。

2F 郷土・せとうち料理「かおりひめ」では、話題のオリーブを食材にしたごまだれ冷やしぷっかけうどんが登場。オリーブの搾り果実を与えて育てたオリーブは、しっかりと赤身の旨さとさっぱりした塩の旨が楽しめます。



オリーブがたっぷり入った冷やしぷっかけうどん(瀬戸内)

東京都港区新橋2-19-10 新橋マリンビル1,2階
【予約】 ☎ http://www.setouchi-shunsaikan.com/
観光交流コーナー TEL03-3574-2028

〔東京で味わえる香川の恵み〕

香川の食材に東京で出会った。
まずは東京で。次はぜひ本場香川へ



臭みがなく脂身が美味しい 讃岐もち豚のロースト

もちりした脂の甘みが特徴の「讃岐もち豚」。大麦・小麦などを含む飼料にこだわって育てられており、平成7年に誕生して以来、愛され続ける「A香川県のオリジナルブランド豚」です。

代々木公園すぐにある「Betterave Bistrot Jiro(ベトラブ ビストロジロー)」では、そんな「讃岐もち豚」を楽しむことができます。お店を切り盛りするのは、高松市出身の飯島オーナーシェフ。ウクライナの日本大使館で料理長を務めた経験を生かし、東京でウクライナ料理も組み込まれたビストロをはじめました。

「讃岐もち豚は何となく脂の旨さが特徴。シンプルな調理方法のウクライナ料理だからこそ、素材の良さが引き立ちます」と話してくれました。じっくりとローストされた「讃岐もち豚」は、かむほどに甘い脂の旨みが口の中に広がります。季節に応じて香川から届く旬の野菜や魚のほか、味の決め手となるしょうゆやオリーブ、レモンなどは香川県産のものを使用しているのだとか。「さまざまな土地の料理を学んできましたが、慣れ親しんだ香川の味が一番だと感じる」のだと教えてくれました。オーナーが生み出す料理の数々は、どこか香川らしさを感じさせてくれます。



飯島オーナーシェフ

【Betterave Bistrot Jiro(ベトラブ ビストロジロー)】
東京都渋谷区宮ヶ谷1-10-5 1F TEL03-5790-9466

瀬戸内国際芸術祭2016 島巡りの必携アイテム 「作品鑑賞パスポート」

パスポートで鑑賞できる作品の総額は、25,000円以上。パスポートの提示でイベントや協力施設の割引があり、さらに車でお出かけの方には、サポート高松臨時駐車場の無料利用(2回まで)もあり、大変お薦めです。

夏、秋の芸術祭、島巡りを存分に楽しんでいただけるパスポートはコンビニエンスストア、主要旅行代理店、郵便局などで絶賛発売中!



当日券(一般)	
一般	5,000円
高校生(香川・岡山県内)	3,500円

【問い合わせ】瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局 TEL087-813-2244
瀬戸内国際芸術祭 ☎ http://setouchi-artfest.jp

就職・移住するなら香川県で 「jobナビかがわ」にご登録ください

香川県の就職支援サイト「jobナビかがわplus」が「jobナビかがわ」としてリニューアルしました。県内企業の情報をより広くお届けするため、新たに保護者向け、高校生向けの区分を設けて、サイトの閲覧対象者を拡大しています。

「jobナビかがわ」では県内の企業、約1,100社の情報を掲載しており、登録すると「かがわ就職・移住サポートセンター」が取り扱う求人に加えて、ハローワーク求人情報も検索・閲覧でき、経験豊富な専門スタッフによる職業紹介も受けることができます。

そのほかにも、合同企業説明会や就職セミナーなどの最新情報や学生による企業レポート、内定者レポートを掲載しており、香川県で働きたいと考えている求職者や学生に向けてさまざまな情報を発信しています。



＜就職・移住イベント情報＞

これから就職活動を進める学生さんへ(大学3年生など)
かがわインターンシップ合同交流会 7月2日(土) サポート高松 展示場
香川県の優良企業が集まります。インターンシップ先をみつけよう!

香川県へ移住を考えている皆さんへ
かがわ暮らしセミナー in 東京 7月9日(土) 移住・交流ガーデン
先輩移住者の体験談が聞けるほか、県や市町による移住相談も。

【問い合わせ】香川労働政策課 TEL087-832-3368

jobナビかがわ ☎ http://www.jobnavikagawa.jp/

G7香川・高松情報通信大臣会合を開催しました

4月29、30日に、高松市で「G7香川・高松情報通信大臣会合」が開催されました。この情報通信大臣会合は、伊勢志摩サミットに合わせて、各地で開催された関係閣僚会合の一つで、サミットの枠組みとして日本で初めて行われる情報通信大臣会合であり、さらには、四国で初めてのサミット関係閣僚会合です。

会合では、ICT(情報通信技術)分野での技術革新による経済成長やサイバー空間での安全性などのテーマについて議論され、G7としてICT分野に関する強いメッセージを世界に発信しました。

また、会合終了後は、参加者を讃島の地中美術館に案内し、「世界の宝石」とも称される瀬戸内海や現代アートを堪能していただきました。香川県では、引き続き各種の会議や大会、イベントなどMICEの誘致を行い、交流人口の拡大による地域活性化につなげていきます。



【問い合わせ】香川観光政策課 TEL087-832-3389

情報通信大臣会合 MICE ☎ http://g7-meeting-takamatsu/kagawa.jp/

SETOUCHI SUMMER NIGHT FESTIVAL 2016

～真夏の夜の夢&ミュージッククルーズ～
を開催します

サポート高松を舞台に、香川の夏の夜にぎわいます。毎年好評の「真夏の夜の夢」は、音楽やダンス、大混雑などのパフォーマンスと県内の人気店による食のブースが一度に楽しめるイベント。いつもとは少し違った雰囲気の中、心地よい夏の夜を楽しめます。



【期間】7月23日(土)～8月7日(日)の16日間
※天候等により中止する場合があります。
【場所】サポート高松ハーバープロムナード 【時間】17:00～21:00



また、「真夏の夜の夢」開催期間中の土、日曜日には、高松港を発着する定期フェリー航路(高松一宇野間)を利用して、ミュージッククルーズ船を運航します。船上では瀬戸内海の雰囲気や音楽や、県産食材を活用した料理などが楽しめます。

【運航予定日】7月23日(土)、24日(日)、30日(土)、31日(日)、8月6日(土)、7日(日)
【参加費】5,000円(中学生以上)、4,350円(小学生以下)

イベントの詳細は、決まり次第、特設ウェブサイトにてお知らせします。
http://www.setouchi-summer-night2016.com

【問い合わせ】香川ウォーターフロントフェスティバル実行委員会事務局
(香川観光政策課内) TEL087-832-3360

うどん県を楽しむパスポート 「うどん県おもてなしパスポート」を 発行しました

おもてなしの心が詰まった、便利でお得なパスポート「うどん県おもてなしパスポート」を発行しました。

スタンプを集めて応募すると抽選ですてきな景品が当たるスタンプラリーや県内の対象施設・店舗で使えるクーポン、対象施設に宿泊する際に欠かさず。そのほかにも、香川県産の優れた食材を使用して魅力的な料理を提供している「さねきダイニング」の紹介や、うどん好きにはうれしい「朝うどん・夜うどん」情報などを掲載しており、香川県を旅する際には欠かせません。

「うどん県おもてなしパスポート」は、香川県内の各交通機関ターミナルや観光スポットなどで配布しているほか、県外では香川・愛媛せとうち旬彩館や香川県東京事務所、香川県大政事務所でも配布しています。ぜひご利用ください。



【問い合わせ】香川観光政策課 TEL087-832-3360

うどん県おもてなしパスポート ☎ http://www.my-kagawa.jp/